

平成 20 年 1 月 28 日
東京都板橋区小豆沢 3-6-10
オリエンタル酵母工業株式会社

オリエンタル酵母工業 第 3 四半期決算発表

平成 20 年 3 月期 第 3 四半期決算

オリエンタル酵母工業株式会社(社長:内藤利邦)の平成 20 年 3 月期第 3 四半期決算は、R&D体制の更なる強化と生産体制の増強を図り、研究開発・製造・営業が一体となった積極的な販売促進活動を推進してまいりました。

しかしながら、原材料価格の高騰分をコスト削減施策や価格改定で十分に吸収できなかったことに加え、食品・バイオ両部門でのいくつかの事業の需要低迷、特にバイオ部門における主要得意先である医薬品業界での大型再編に伴う研究開発施設の統合や、外資系製薬企業の研究所の海外移転加速等の要因による売上不振もあり、利益は前年同期を下回りました。

当第 3 四半期の売上高は 463 億 90 百万円(前年同期比 100.4%)となり、営業利益は 12 億 62 百万円(前年同期比 75.8%)、経常利益は 14 億 43 百万円(前年同期比 78.7%)で、四半期純利益は 8 億 30 百万円(前年同期比 80.8%)となりました。

平成 20 年 3 月期 今期連結業績予想

食品部門は、引き続き新製品開発やソフト提案力の強化を進めるとともに、一部製品の価格改定を進めてまいります。併せて、イーストやフラワーペースト、並びに昨年稼働した油脂加工品新工場棟での製品を始め、主要製品の拡販を積極的に行ってまいります。

バイオ部門は、エネルギー費や穀物相場の高騰を吸収すべく諸施策の推進に加え、今春から一部製品の価格改定を進めてまいります。

また、生化学・免疫製品を中心とした新製品の上市を促進するとともに、トレーサビリティを強化した千葉工場の特注飼料製造ラインや、子会社のオリエンタルバイオサービスの受託飼育施設増強等により、ラボラトリーアニマルサイエンス事業の業容を拡大してまいります。

売上高は 618 億円(前期比 101.3%)と増収となるものの、利益面では経常利益は 24 億円(前期比 91.2%)、当期純利益は 13 億 30 百万円(前期比 71.6%)と減益となる見込みであります。

利益還元について

会社の利益配分につきましては、株主への利益還元を経営の基本方針としており、安定配当を維持し、なおかつ配当水準の向上に努めております。

なお、株主の皆様への利益還元を積極的に進めるべく、20 万株、150 百万円を上限とする自己株式取得を決定いたしました。

以上